

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ		(NKT22P)
講義名 (コード)	日本語資格対策Ⅳ A		(NKT22PA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自分の行動としてよく使う文型について理解できる①	ドリル&ドリル2回演習 文法（つつある、ては、てこそ、というものだ）
2	自分の行動としてよく使う文型について理解できる②	ドリル&ドリル3回演習 文法（だけのことはある、てほしいものだ、てみせる）
3	自分の行動としてよく使う文型について理解できる③	ドリル&ドリル4回演習 文法（ないこともない、にしろにしろ、ドリルA）
4	ビジネス会話で使う文型について理解できる①	ドリル&ドリル5回演習 文法（かねる、～に沿って、～を契機に、ドリルB）
5	結果を伝える表現としてよく使う文型について理解できる①	ドリル&ドリル6回演習 文法（あげく、～ことなく、つつも、とはいうものの）
6	結果を伝える表現としてよく使う文型について理解できる②	ドリル&ドリル7回演習 文法（として～ない、ない限り、に限って、～に応じて）
7	まとめ問題で8割正答できる①	ドリル&ドリル8回演習 文法（ドリルC U3、U4）
8	まとめ問題で8割正答できる②	ドリル&ドリル9回演習 文法（実践練習U1～U4）
9	実際の試験で8割正答できる①	模擬試験文字・語彙（2023年JLPT試験12月にむけて）
10	実際の試験で8割正答できる②	文字語彙FB、模擬試験文法（2023年JLPT試験12月にむけて）
11	実際の試験で9割正答できる③	文法問題FB ドリル&ドリル10回演習
12	授業のまとめ①	前期の内容について、復習する
13	授業のまとめ②	後期の内容について、復習する
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	スピードマスターN2 文法/パワードリルN2文字・語彙/ドリル&ドリルN2文字・語彙
参考文献・資料等	
備考	